

「努力することに無駄なことは一つもない」

5月4日付の朝日新聞にアスリートからのメッセージが掲載されていたので、紹介する。

北京オリンピックスピードスケートの高木菜那選手。彼女は、前回の平昌大会で2つの金メダルを獲得した。今回、団体追い抜きで2大会連続の金メダルに王手がかかった決勝に出場したが、ファイナルラップで転倒し、惜しくも銀メダルとなった。その悔しい思いを持ちつつ、語ったのは、「今は北京五輪のことは、あまり話したくないです。まだ、乗り越えていないので。ただ、五輪に限らず、今まで結果が出なかったとき、努力しても思うように進まないときはたくさんありました。＜中略＞平昌の二つの金は努力が報われた思い？じゃあ今回の北京は努力していないのかということ、そうじゃない。羽生（結弦）選手だって、すごい努力をしてきたと思うんですよね。その中で結果が出なかった。努力しても結果に結びつかないことはあるし、すべてがかなうことではありません。つらいこともあって、めざした結果が出なかった。じゃあ、私たちの人生は不幸かと言われたらそうじゃない。どんなに努力しても結果が残らないことはあるんだなと。高校卒業後、所属先の先輩で2010年バンクーバー五輪銀メダルの長嶋圭一郎さん、銅メダルの加藤条治さんに会えた。『努力することに無駄なことは一つもない』長嶋さんがかけてくれた言葉を大切にしています。間違ってもいいから努力し、挑戦することは無駄じゃない、自分から行動することが大事だと。社会人1年目に大切にしていたことは、話をしっかり聞くこと、先輩より先に行動することでした。そうやっていい人間関係を築いていくと、相手から信頼されます。だから、いい指導者や先輩、後輩たちにめぐりあえたのかなと思います。」ということだった。

このゴールデンウィーク中、各部活動の試合が行われた。観戦可能な大会には足を運んだ。どの競技も、顧問の先生方、その他大会関係者の献身的な努力で大会が運営されていることに、改めて感服した。その献身的な努力は、生徒の皆さんのひたむきに取り組む姿に支えられていることも強く感じられた。汗にまみれ、勝って涙し、負けて涙する。一生に一度しかないこの春の一瞬一瞬に、競技する人も観ている人も心が揺さぶられる。勝って終われるのは、全国大会で優勝するチームだけしかないという話は、先日の部活動激励会でも話した。勝利に向かって最善の努力を尽くすことが、人を成長させる。しかし、勝つチームがあれば、負けるチームもある。よしんば勝利という結果は得られなくても、勝利に向かって最善の努力を尽くしたことは、決して消えることはない。自身の心と身体に刻まれ、自身を支えてくれる。そして、ここで築いた顧問の先生、先輩、後輩との信頼関係もまた自身を支え、次に出会う誰かとの信頼関係の構築に役に立つ。『努力することに無駄なことは一つもない』のだ。

テイラー・スウィフト（アメリカのシンガー、“Shake it off”で有名）の言葉

If somebody hurts you, it's okay to cry a river: Just remember to build a bridge and get over it.

「もしも誰かがあなたを傷付けてきたら、川のような量の涙を流したって良い。大切なのは、そこに橋をかけて乗り越えることよ」

新学期にはクラス替えもあり、クラスでの自分の居場所に不安を感じる人も少なくないだろう。悲しいこと、辛いことがあったら、涙を流せばいい。その気持ちを分かってくれる人は必ずいる。自分一人で抱え込むのではなく、必ず誰かに相談してほしい。橋を誰かにかけてもらうこともできる。その一つの方法として、キャンパスカウンセリングがある。詳しくは保健室でまず相談してほしい。



(<https://twitter.com/aigo89214272727/status/1260470499970351104>)